



新たなチャレンジが始まった 紀尾井シンフォニエッタ東京

新日鉄が長年続けてきた音楽メセナの一環として誕生した「紀尾井ホール」。そのレジデント・オーケストラ「紀尾井シンフォニエッタ東京」は、2002年に特定非営利活動法人(NPO)化し、メンバーが運営に積極的に参画する新しいスタイルのオーケストラへと生まれ変わった。その際に、メンバーの意見、提案を反映したプログラムや客演指揮者を決定する組織として「プログラム委員会」が発足した。本シリーズ第2回目では、5人のプログラム委員にスポットを当て、演奏家が運営に関わる、世界でも珍しい取り組みを紹介しながら、来年10周年を迎える「紀尾井シンフォニエッタ東京」の魅力と新たなチャレンジについて伺った。



紀尾井シンフォニエッタ東京のプログラム委員

池松 宏氏(コントラバス) 玉井 菜採氏(ヴァイオリン)
河原 泰則氏(コントラバス) 丸山 泰雄氏(チェロ)
近藤 高顯氏(ティンパニ)

豪華メンバーと優れたホールの コラボレーション

1995年4月、「紀尾井ホール」のオープンと同時に発足したレジデント・オーケストラ『紀尾井シンフォニエッタ東京』(以下、KST)は、第一線で活躍するソリスト、室内楽やオーケストラの首席奏者など総勢46名で構成されている。その実力はデビュー当時から高く評価されており、現在、既に国内有数の室内オーケストラ(*1)としての名声を確立している。ホールとオーケストラ両者の潜在能力を最大限に引き出すために、実演するホールでリハーサルをして音を練り上げていく。

*

玉井 KSTは他のオーケストラと違い、1年に5回の定期公演の時だけ集まるので、それ以外の時は、他のオーケストラやフリーで活動したり、指導者として後進の育成にあたるなど、各人がさまざまな活動を行っており、これが一つの特徴ですね。

河原 普段はドイツにいたので、定期演奏会の時期になると日本の優れた演奏家と一緒に演奏できることが非常に楽しいですね。

池松 日本のオーケストラの第一線で活躍する豪華なメンバーと一緒に演奏できることは大変な魅力です。河原さんをはじめ、ここにいる皆さんのように普段は一緒に演奏する機会がない方と一緒にできますから。

丸山 世界一の室内オーケストラを作る目的でKSTは設立されましたが、発足時にメンバーを見て、確信を持ちまし

た。一番驚いているのは海外の客演指揮者の方々です。「最初のリハーサルでこんなにうまいオーケストラは初めてだ」と言っていたが、次の機会につながるケースが多くあります。

池松 規模もちょうどよく、ハイドンやベートーヴェンを演奏できる最小単位のオーケストラです。人数が多くなると、妥協しなければいけないことがありますが、KSTでは一人ひとりが責任を持ちながら、大編成のオーケストラのような豊かな音が出せます。

近藤 ホールによって音の響き方が全く異なりますから、本番と同じホールで練習できるメリットは大きいですね。私が使用しているティンパニは牛皮を張ってあるので、湿度の影響を受けやすいのですが、紀尾井ホールは空調管理がしっかりしていて何かあれば迅速に対応してくれるので、ホールと音を作り上げるティンパニやコントラバスは助かります。



リハーサル風景

新体制を支える「プログラム委員会」

KSTは、2002年8月に特定非営利活動法人(NPO)化して(財)新日鉄文化財団から独立し、メンバー自身が積極的にオーケストラ運営に参画する新体制になった。そしてより多様な表現力を身につけるため、常任指揮者を置かずに公演ごとに客演指揮者を招くようになった。

現在では、5名のプログラム委員と事務局で構成される「プログラム委員会」で、メンバーの意見や提案を取り入れ、客演指揮者、ソリスト、プログラム構成を決定している。

*

丸山 プログラム委員会は、メンバーの総意で設置されました。以前のプログラムはヨーロッパのアドバイザーの意見で組み立てられていましたが、結果として斬新な曲ばかりとなり、集客が見込めませんでした。いくら演奏者が楽しくてもお客様に喜ばなければ意味がありません。そうしたことも含めて自分たちで考えようと思いました。

河原 音楽家が自ら運営に携わるオーケストラは、世界的にもあまり例がありません。

玉井 プログラム委員は、毎年、KST全メンバーの投票で上位5名が選ばれます。偶然にも担当楽器の特性も含めて、バランスの良い選出になっていますね。ヴァイオリンセクションは若い女性が多く、結構シャイな方も多いので、そうした方々の意見を吸い上げるよう心がけています。

池松 コントラバスはオーケストラの中でも少人数ですが、オーケストラの組合や執行部に選ばれるケースが多いようです。指揮者から遠い場所にいるので、演奏中も全体的にもものを見ることができません。僕の場合は、若い世代とベテラン世代の中間で、NHK交響楽団にも在籍していますので、その経験が見込まれたのかもしれませんが。

近藤 ティンパニは第2の指揮者とも言われ、指揮者の考える音楽を先取りして音を出さなければならないため、オーケストラの雰囲気や即座にキャッチできます。また楽曲に対して、弦楽器の視点とは異なる表現を提供していくことも重要な役割です。

丸山 オーケストラではコンサートマスター(*2)が全体の演奏をリードしますが、大抵は指揮者に向かって右



プログラム委員会の様子

の高音域の楽器演奏者になります。私が担当するチェロは左側で一番指揮者に近い位置にいるため、前の音を聴きづらい後ろの演奏者に、体で表現して見せる役割があります。その意味では、チェロがプログラム委員の中にも自然なこともかもしれません。

河原 この5人は、根本の音楽観が似ていて信頼関係もありますから、独り善がりな偏った方向に行く危険性がなく、うまく機能していると思います。私は年長者の中では若手で(笑) また、長年ドイツに住んでいますので、ヨーロッパの最新の音楽事情に関する知識や、アーティストとの交流を通して得た情報を活かしてKSTはもちろん、日本の音楽界に尽くしたいと思っています。

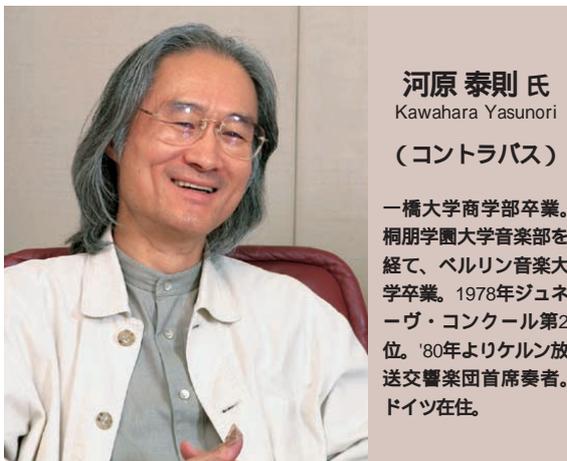
NPO法人化後の体制確立への手応え

KSTが新体制になって今年で2シーズン目になる。既に定期会員数は、先シーズンに比べ、大幅に増えている(次ページグラフ)。KSTおよびプログラム委員会の中ではどのような取り組みが行われているのだろうか。

*

近藤 NPO法人化され、お客様からはプログラムの色がとても変わり、シーズンごとにカラフルになっていると言われます。

池松 プログラム委員会では、事前にメンバーの意見や提案、外部からの情報を仕入れて、プログラム委員会、事務局、(財)新日鉄文化財団が三位一体となって協議し



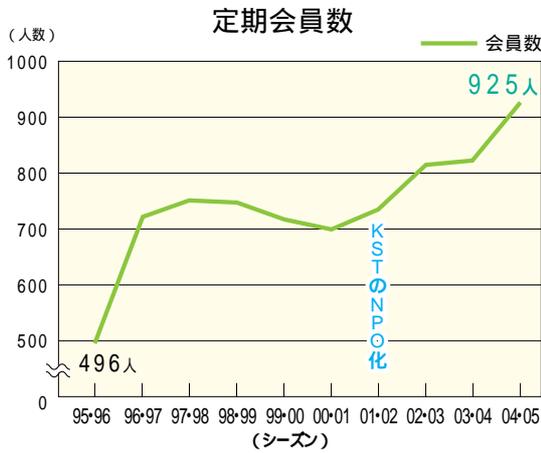
河原 泰則氏
Kawahara Yasunori
(コントラバス)

一橋大学商学部卒業。桐朋学園大学音楽部を経て、ベルリン音楽大学卒業。1978年ジュネーヴ・コンクール第2位。'80年よりケルン放送交響楽団首席奏者。ドイツ在住。



丸山 泰雄氏
Maruyama Yasuo
(チェロ)

東京芸術大学卒業。第58回日本音楽コンクール第1位、増沢賞、特別賞受賞。94年ドイツ・マルクノイキルヒェン国際チェロコンクール特別賞。ソロ活動のほか室内楽シリーズをプロデュース。



ドレスデン音楽祭会場となる「ゼンパー・オペラ」

指揮者 ハルトムート・ヘンヒェン氏

ています。決定の手順としては、最初に指揮者やソリストの人選を行ったうえで、その人たちと演奏したい曲を決めていきます。

河原 リストアップした音楽家について、何が優れているのかを見極めて交渉するのは当然ですが、同じ音楽家としてわかり合えますから、円滑に事が運びますし、それが強みになっていると思います。

近藤 ビジネスとして成功させることに加え、我々に対して音楽表現の可能性や幅を広げるための何らかの財産を残してくれるような方がいいですね。プログラムを考える上で一番難しいことは、シーズン単位での流れを考えることです。一つひとつのプログラムが最善のものでも、年間を通すと違和感が出てしまうことがあります。そういう点でも演奏家としてポリシーを持っていないといけませんね。

丸山 自分たちの意見が反映できるので、メンバーのやる気も高まってきました。それぞれが演奏したい曲を勉強し、準備が整った状態で集まり、それがすぐに音に反映されます。不思議なことに本番でステージに上がる時の歩くスピードや姿勢まで変わりましたね（笑）。

玉井 確かに以前は少し受身なところがありました。設立当初から皆KSTに誇りを持ってきましたが、さらに自分たちのオーケストラの質を高めていこうという意識が出てきたと思います。

丸山 個々の演奏家の発言力が高まり、それぞれの得意とする曲によってトップを柔軟に変えることができるので、演奏者の配置が適材適所になりました。こうした変化の結果、演奏も良くなっており、それがお客様に伝わり、楽しんでいただけているのだと思います。

10周年を迎え、新たなチャレンジ

10周年を迎えたKSTは、新たな挑戦を行う。まず、今年12月17・18日の第47回定期演奏会では指揮者なしの演奏を行う。そして来年5月には、2003年に共演した指揮者ハルトムート・ヘンヒェン氏の“ひとめぼれ”により、同氏が音楽監督を務める「ドレスデン音楽祭」に正式招聘された。通常の海外公演では各都市で1公演ずつ演奏することが多いが、KSTは実力が高く評価され、音楽祭期間中に異例の4公演を行う。

*

近藤 一番の挑戦は、初の「指揮なし」の演奏です。指揮者なしの演奏は決して珍しいことではありませんが、既に一定の評価を得たKSTというオーケストラが新体制で初めて挑戦しますから、そこで真価が問われます。

丸山 発足当時から、メンバーの間で「やりたい」と話していましたが、なかなか実現しませんでした。自分のパートだけではなくスコア全てを把握しなければならないので、難易度が高く、非常に緊張感のある演奏になります。音は前に向かうので、舞台上ではズレて聞こえます。タイミングを合わせるために、通常より5～6倍の準備と時間を費やします。しかしお互いの音楽性をより深く知る絶好の機会です。またお客様にも初めて「私たちだけの音」を聴いていただける試金石となります。

河原 ドレスデン音楽祭は、日本ではまだまだあまり知られていませんが、とても大きな音楽祭なので、KSTを世界トップレベルへと高めていくチャンスになります。

近藤 私はドレスデン音楽祭には特別な思い入れがありま



玉井 菜探氏
Tamai Natsumi
(ヴァイオリン)

桐朋学園大学卒業後、スウェーデン音楽院、ミュンヘン音楽大学に学ぶ。ブラハの春国際音楽コンクール第1位。平成14年度文化庁芸術祭賞新人賞を受賞。東京芸術大学で後進の指導にもあたっている。



近藤 高顯氏
Kondo Takaaki
(ティンパニ)

東京芸術大学卒業後、ドイツ政府給費留学生としてベルリン芸術大学に学び、O.フォーグラー教授に師事。帰国後、新日本フィルハーモニー交響楽団に入団し、1989年より同団の首席奏者。

す。ワーグナーやリヒャルト・シュトラウスの初演が行われるなど数々の名演を生み出してきたゼンパー・オパーという会場は、ウィーンのムジークフェラインと並びとても柔らかい良い響きを持ったホールです。私にとってはKSTに客演でお招きしたこともある素晴らしいティンパニ奏者、ペーター・ゾンダーマンが名演を繰り広げた憧れの場所です。そこで自分の音を出した時に何か感じるものが必ずあると信じています。

丸山 KSTの音はヨーロッパの音とは全く違いますが、高く評価して頂いたヘンヒェン氏に大変感謝しています。ヨーロッパの音楽家は自分のアイデア、価値観と異なっても良いものを柔軟に受け入れる度量があるように思われます。それは聴衆にも言えることで、ドレスデンの耳が肥えたお客様からどのような評価が得られるか楽しみにしています。

池松 とは言いながらも、ドレスデンだから頑張っ、他で手を抜くというわけではありません(笑)。国内の地方公演などでも、常にKSTの最高の演奏を聴いていただき、さらにKSTの知名度を上げていきたいと思えます。

長い継続的な支援を必要とする企業の音楽メセナ

現在、企業の社会的貢献が求められている。新日鉄では1955年にクラシックコンサートのラジオ放送を開始して以来、一貫して音楽への支援を続けてきた。目の前で演奏される生の音楽は、形に残るものではない。そこに長く支援を続けてきた意義をKSTのメンバーはどのように考えているのだろうか。

*

河原 日本では、国や地方自治体主導で芸術を支えることが少ないため、KSTのように、民間企業である新日鉄がオーケストラを支援するということは大変素晴らしいことだと思います。

丸山 日本とヨーロッパは考え方が違って、例えば、イタリアでは芸術に対する予算は日本の6倍あります。公的支援があまり多く望めない中、新日鉄がこうした支援を継続したおかげで、KSTも独自性のあるオーケストラへと成長できました。

池松 日本では、多くの企業が長期的展望なしにメセナ活動を始め、不景気になり支援を中止してしまった経緯があ

ります。それでは、演奏家たちが路頭に迷ってしまいます。その点、企業の冠を前面に押し出すことなく長く支援活動をしている新日鉄の姿勢は、大変評価されるべきものです。

KSTが今後目指すべきもの

丸山 300年近く愛されてきたクラシックの曲はやはり良い曲です。そうした良いものを再現できることは喜びで、時代によって解釈も変わるので、ロックよりも斬新なアレンジを加えることができます。日々チャレンジしなければ陳腐化してしまうのが面白いところです。20世紀では、本来小規模編成で演奏するモーツァルトやハイドンの曲を大編成のオーケストラで演奏することになりました。しかし今日、時代考証がされていますので、今後大編成のオーケストラが必要な曲は限られてくると思います。KSTの規模は、これからのオーケストラの主流になるかもしれません。

河原 日本では知名度が低くても高い実力を持つヨーロッパの演奏家を紹介してきましたが、そうした取り組みの意義が理解されるようになってきました。今後は、KSTの演奏家が逆にヨーロッパで紹介されていくような、質の高い音楽を発信していきたいですね。

玉井 大切に温めて成熟させていくものもあれば、果敢に挑戦していくものもあります。演奏家として自らを高めると同時に柔軟に変化しながら、「元気で大人っぽい音」をつくり出していきたいと考えています。

池松 音楽は音を楽しむと書きます。演奏家が楽しんでいなければお客様は楽しめません。まず私たち自身がステージ上で楽しく演奏していきたいと考えています。

近藤 日本に西洋音楽が入ってきて110年ぐらい経ちます。すでに演奏技術はヨーロッパに引けをとらないのですが、プロのオーケストラとして、演奏家一人ひとりが観客に素晴らしい感動を与えるという意味では、まだまだです。KSTはその先駆けになりたいと思います。近い将来、KSTの定期公演のチケットは入手困難な状態になるくらいにファンを増やしていきたいと思っています。



(財)新日鉄文化財団からのお知らせ

新日鉄文化財団では、下記募集を行っています。ぜひご加入ください。

紀尾井友の会

チケットの優先予約・料金割引等の特典があります。

年会費3,000円。

申し込み・問い合わせ先：電話03-5276-4540（10～17時、土日祝休み）

紀尾井ホールサポートシステム

法人・個人の皆様にも、紀尾井ホールの活動を支援していただくサポートシステムで、主催公演のチケット割引・招待、ご芳名の掲載掲示等の特典があります。

会費は個人会員1口1万円、法人会員1口20万円から。

申し込み・問い合わせ先：電話03-5276-4543、FAX03-5276-4527

（10～17時、土日祝休み）

紀尾井シンフォニエッタ東京

2004/2005シーズン定期演奏会 新規定期会員

ご好評につき、定期演奏会の座席をシーズン途中からでも通して確保できます。

4公演（04.12～05.7）S:19,800円 A:16,200円 B:12,600円

3公演（2005.1～7）S:14,850円 A:12,150円 B: 9,450円

申し込み・問い合わせ先：電話03-3237-0061、（10～19時、日祝休み）

池松 宏氏
Ikematsu Hiroshi

（コントラバス）

桐朋学園大学卒業。
堤俊作氏、ゲーリー・カー氏ほかにも師事。1989年NHK交響楽団に入団し、94年より同団の首席奏者。92年よりストリング・アンサンブル“ヴェガ”主宰。



皇后陛下美智子さま古希祝賀コンサート

天皇皇后両陛下 紀尾井ホールにご来臨



お楽しみになる天皇皇后両陛下



ロストロポーヴィチ氏たちの名演奏

10月19日に、皇后陛下の古希をお祝いするコンサートが紀尾井ホールで行われた。「We Love Japan ロストロポーヴィチ スペシャルコンサート」と題するこのコンサートは、かねてから皇后陛下と親交のあった、世界的チェロ奏者・指揮者のムスティスラフ・ロストロポーヴィチ氏が古希のお祝いを宮中で行いたいと申し入れをされたことをきっかけに、皇后陛下がご自分のためではなく、多くの人々とともに紀尾井ホールで鑑賞されたいとご希望されたことから、チャリティーコンサートとして実現した。

当日、満席の聴衆で埋めつくされた紀尾井ホールでは、天皇皇后両陛下を盛大な拍手でお迎えした。まず、現田茂夫氏の指揮、Rostropovich & Young Japanese Musicians Orchestraの管弦楽、モーツァルトの歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」序曲で始まった。次に、ハイドンのチェロ協奏曲第一番八長調ではロストロポーヴィチ氏のすばらしいチェロが奏でられ、さらにアンコールを受けてバッハの無伴奏チェロ組曲が会場を静かな興奮に包み込んだ。後半は、ロストロポーヴィチ氏の指揮でチャイコフスキーの弦楽セレナード八長調が演奏された。最後はロストロポーヴィチ氏が歌いながらタクトを振り「Happy Birthday to You」を演奏すると、会場は拍手の渦となり、演奏終了後も聴衆と演奏者全員が立ち上がり喝采を送りつづけた。

両陛下は、何度も演奏者と聴衆にご挨拶をされ、会場を去りがたいご様子で、舞台から気遣ったロストロポー

ヴィチ氏が、繰り返しご退席をお勧めしてようやく出口に向かわれることとなった。

ご案内役を務めた新日鉄文化財団理事長の千速会長は「このようなおめでたい企画が紀尾井ホールで催され、天皇皇后両陛下にお楽しみいただけたことは、まことに光栄です。これからも、紀尾井ホールにご臨席賜り、最高の音楽に接していただければ幸いです」と述べた。



天皇皇后両陛下ご入場。ご案内する千速会長(新日鉄文化財団理事長)



お席にて

ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ Mstislav Rostropovich : 20世紀を代表する、世界を舞台に活躍するチェロ奏者、指揮者。1927年旧ソビエト連邦のパクー生まれ。ピアニストの母、チェロ奏者の父より音楽の手ほどきを受け、16歳でモスクワ音楽院に入学。チェロのほか、ショスタコーヴィチ、プロコフィエフに作曲を師事。チェロ奏者としてだけでなく指揮者としての活動も盛んで小澤征爾との親交も厚い。

Rostropovich & Young Japanese Musicians Orchestra : 小澤征爾が指導する日本の若いアーティストのオーケストラ。

「We Love Japan ロストロポーヴィチ スペシャルコンサート」 : 主催 : (財)ジェスク音楽文化振興会、後援 : (社)日本オーケストラ連盟、協力 : (財)新日鉄文化財団、企画制作 : ジャパン・アーツ

* 撮影 : 満田 聡